

## 第7回日中韓大学院生フォーラムのサポートに関する報告

生命環境エリア支援室 中国連携サポートチーム

正岡裕子、高橋未来、水代祐子、大坪龍介

私たち中国連携サポートチームは、生命環境系における中国連携事業の支援を目的として、生命環境エリア支援室の教務・研究支援・会計・総務から1名ずつ集まって構成しています。2014年度開催の第7回日中韓大学院生フォーラムでは中国地質大学がホスト校だったため、私たちのチームが支援する機会をいただきました。

### 1 目的

本フォーラムは、学生が主役となって研究発表や大学間交流等を行う国際イベントです。今回、私たちは、下記2点を目的にサポート活動を進めました。

- ・事務的な調整や処理を担い、参加学生に発表や交流の準備・実行に集中してもらう
- ・学生リーダーグループを支援し、参加学生に対するリーダーシップを発揮してもらう

### 2 主な活動と所感

私たちは、本フォーラムで主に下記のサポート活動を行いました。それぞれの活動には主担当を決めましたが、個人プレーで進めるのではなく、情報共有・相談・協力をしながらチームで進めることを心掛けました。

#### 2.1 学内組織との調整、手続き（主担当 水代祐子）

昨年度のサポートチーム担当者と連絡を取り、事務的な調整事項や対応について漏れのないよう引き継ぐとともに、実行委員会代表の楊先生や学生リーダーグループ、国際室と連絡を取りながら、ホスト校である中国地質大学への記念品を選出・発注しました。

また、フォーラムが終了した今、報告書の製本のため、本部の総合事務センターと連絡調整を行っています。

その他にも様々な学内組織との調整事項がありましたが、その都度、サポートチームや楊先生、学生リーダーグループと情報を共有し、連携して進めることで、円滑に業務を遂行することができました。

#### 2.2 外部組織との調整、手続き（主担当 正岡裕子）

旅行会社から見積りを取得し、航空券やバスの手配を行いました。限られた予算のなかで信頼できる旅行会社を探したり、また全体で25名という大所帯で移動するため細かな調整や確認をしました。

また、留学生の査証の取得に係る書類の準備も行いました。中国の査証について調査していくなかで、国籍によっては取得が難しい場合があることが分かり、全員無事に査証を取得できたと聞いたときはほっとしました。

普段から出張手続きの一端を担っていたのですが、支援室に書類が届くまでにこんなにも手間と時間が掛かっているということを実感しました。改めて先生方の業務量の多さ、フットワークの軽さに感服しました。

## 2.3 会計処理、予算管理（主担当 高橋未来）

会計としての仕事は、フォーラム参加に向けて必要となる参加者の航空券代や、記念品代等の会計処理と、配分された予算の管理です。

会計処理については、納品されたもののチェック、請求書等の必要書類の確認、会計システムへの金額等のデータ入力等を行いました。予算の管理については、系・研究科・学群それぞれからフォーラムに配分された予算をどう使用するか、チームや支援室のなかで相談しながら決定していきました。

支援室で会計業務を担当して間もないなかでフォーラムの会計処理と予算管理を任せられ、責任も感じましたが、チームメンバーや上司のサポートもあり、何とか終わりが見えてきたところです。

本プロジェクトに携わったことで、ひとつのプロジェクトを作り上げる過程を実感することができ、とても貴重な経験となりました。会計担当以外の職員や先生、学生の皆さまと関わることで視野も広がったように思います。

## 2.4 スケジュール管理、フォーラム随同行（主担当 大坪龍介）

私たちのサポート活動全体を細かいタスクに分割し、各タスクの担当者を決定するとともに全体の進捗管理を行いました。試行錯誤したタスクもありましたが、チーム全員でどうにか成し遂げることができました。

また、学生や教員に随行してフォーラムに参加し、プレゼンテーション等の撮影、教授陣会議への出席などを行いました。フォーラムでは、本学の学生全員が素晴らしいプレゼンテーションを行い、結果として13もの賞を獲得しました。パーティーでは学生全員で折鶴のパフォーマンスを披露し、中国・韓国・日本の学生と交流を深めました。本学の学生が1つのチームになったように感じたのと同時に、他大学の学生と積極的に関わろうとするオープンな姿勢を感じました。事務職員として価値ある体験をさせていただきました。

## 3 おわりに

私たちは今回の活動のなかで、教員や学生と一緒に仕事を進める機会、海外に接する機会を与えていただきました。新しい経験もあり、チーム全員が一步成長できたのではない

かと思っています。

また、活動を進めるにあたり、生命環境エリア支援室の諸先輩方から貴重なアドバイスをいただくとともに、楊先生や学生リーダーグループにも打ち合わせ等で相談をさせていただきました。振り返れば、私たちサポートチーム自身、多くの方に支えられることで活動を遂行できたと感じています。チーム一同、皆さまに深く御礼申し上げます。

来年度は本学がホスト校となります。今回の私たちの活動や経験が、来年度またそれ以降のフォーラムに係る活動の礎になれば幸いです。

以上



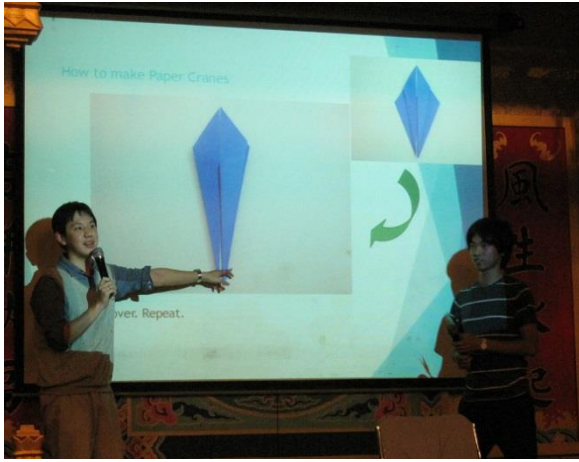
2014年度中国連携サポートチーム



楊先生、学生リーダーグループとの打ち合わせ



学生によるプレゼンテーション



学生による折鶴のパフォーマンス